

2015年7月30日

地域・都道府県サッカー協会 御中
各種連盟 御中

公益財団法人日本サッカー協会
専務理事 原 博 実

試合開催時における暑熱対策について(ご連絡)

平素は、本協会事業に対しましてご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、全国的に猛暑が続く中、皆様におかれましては暑熱下での試合および練習中において選手、審判員、スタッフ、観客等への積極的な水分補給を奨励するなど、対策をとられていることと思います。

例年のことながら、改めて試合中の選手等の水分補給や暑熱対策についてご連絡させていただきます。

本協会では、1997年6月に「サッカーの暑さ対策ガイドブック」を配布して以降、以下の通達文にて注意喚起を行ってまいりました。2013年7月付の通達では、第1種・女子・シニアの大会においても、飲水のタイミングを十分に配慮して環境を整えることとし、飲水タイムを設けることについては、「プレーヤーの安全を守るということを目的に、各大会のコンディションに基づき主催者、審判等関係者で協議して運用できる」として通達しております。

これらの通達に加えて更なる暑熱下で試合を行う場合は、下記のような対策を積極的に取り入れることにより、暑熱対策を行っていただきますようお願いいたします。

また、チームの監督や保護者に対し、選手の体調管理に努め、体調がすぐれない選手はプレーさせない、試合中に異変を感じたら交代させるなど、絶対に無理や我慢をさせない適切な判断をすることを呼び掛けていただきたく、重ねてお願いいたします。

記

【運営体制に関して】

- 極力、暑い時間帯のキックオフを避けるなど無理のない試合日程を組むように心掛ける。
- 飲水タイムを通常(30秒～1分)より長めに設定する、もしくは回数を増す。
- テント等を設け、試合前後やハーフタイムには日陰に入れるようにする。
- WBG(湿球黒球温度)の数値を把握し、予防策を十分に検討する。
- 状況に応じて、休息の時間を設けたり、試合の中断および中止も検討する。
- 熱中症になった場合の応急処置の方法や用具設置等の事前確認を徹底する。
- 人工芝を使用する際は、ピッチ表面の温度が通常より高くなるため、事前に散水をするなどして慎重に対処する。

【競技者・審判員に関して】

- 飲水タイム中に体に直接冷たい水を浴びるなど、飲水以外の対策をとる。
- 飲水タイム以外でも、飲水しやすいように手前側(ベンチ側)のタッチライン沿いだけでなく、反対側のタッチライン沿いやゴール裏にもボトルを置く。
- ボトルをこまめに冷水に交換する。また、水以外の飲料(スポーツドリンク)等も飲めることが望ましい。

【観客等に関して】

- テント等により直射日光を避けられる場所を設置する。
- 飲料の販売や、自動販売機により飲料の購入ができることを確認する。
- こまめな水分補給の促しや気分が悪くなった際に大会運営スタッフに申し出ることについて、場内アナウンス等で繰り返し告知する。

<通達文>

◎「暑熱下でのユース以下の試合の飲水について」(1997年6月)

◎「審判委員会通達」 発信: 日本サッカー協会審判委員会(2011年6月)

◎「【連絡】夏季競技会・試合での対応について」 発信: 日本サッカー協会審判部(2013年7月)

<ご参考>

◎スポーツ医学委員会見解 日体協 HP 「熱中症を防ごう」 <http://www.japan-sports.or.jp/tabid/523/Default.aspx>

◎FIFA サイトより <http://www.fifa.com/aboutfifa/footballdevelopment/medical/playershealth/risks/heat.html>
<http://www.fifa.com/aboutfifa/organisation/bodies/news/newsid=1608553/>

以上

<p>《本件に関するお問い合わせ先》 公益財団法人日本サッカー協会 競技運営部 TEL 03-3830-1809</p>
--